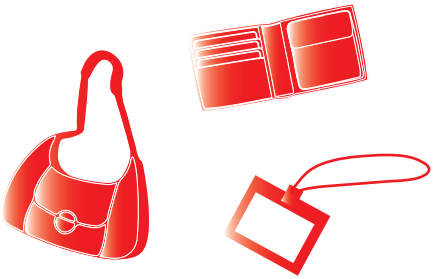

ヘルプカードの持ち歩き方

携帯の方法については、障がいの種別や程度、状況、考え方によって皆違います。また、ヘルプカードには大切な個人情報も多く含まれていますので、取扱いや紛失に十分に注意しなければなりません。

例えば、ケースに入れ、財布やカバンにしまっておいて困ったときに取り出すというやり方、周囲にすぐ気づいてもらえるようケースに入れカバンの外に取り付けておくやり方、または障害者手帳や定期券などに入れておくやり方等、ご家族や支援者の方と相談しながら、適切な持ち歩き方を一緒に検討ください。

コレ１枚で、大切なことが伝わります

ヘルプカードは、義足や人工関節を使用している方、知的障がい、内部障がい、発達障がい、精神障がい、難病、そして妊娠中の方など、援助を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなることを目的としています。

このヘルプカードは、日常的なちょっとした場面での援助のほか、緊急時 (道に迷ってしまったとき、パニックや発作のとき) や災害時 (災害に伴う避難生活が必要になったとき) など、非常事態に陥った際にも役に立ちます。

このヘルプカードに関するお問い合わせ先

〒822-8501
福岡県直方市殿町 7-1　直方市役所
市民部　健康福祉課　障がいサービス係
ＴＥＬ : 0949-25-2139
ＦＡＸ : 0949-25-2135
E-mail : n-fukushi@city.nogata.fukuoka.jp

- みんなが安心して暮らせる社会へ -

ヘルプカード
ご 案 内

直方市

ちょっと手助けが必要な人

困っているときでも、周りは知らない人ばかりだし、迷惑かなって考えるとお願いしづらいです。
一度お願いしたこともあるんですが、うまくわかってもらえなくて、それから頼みづらくなりました。

ヘルプカードは、あなたに代わって手助けを求めるカードです。

知らない人に手助けを求めるのはとても勇気のいることです。また、何に困っているかを正しく相手に伝えるのも難しいことです。
ヘルプカードは、日常的に携帯・提示するだけで周囲への配慮と手助けをお願いし、カードの中身を見せることで、代弁してくれます。

ちょっと手助けしたい人

「困っているのかな？」って思うけど、手助けを嫌う人もいるし、声かけに戸惑ってしまうことがあります。
それに、声をかけたとしても、実際どんな風に手助けしていいかわからないんです。

ヘルプカードで行う支援は、誰もができるものです。

ヘルプカードを持つ方達は、ちょっとした周りの配慮があれば安心して社会で生活ができます。
見かけた際は、まずはそっと見守っていただき、困っているのかなと感じたら、ゆっくりと声をかけ、その方のお話に耳を傾けてください。

家族や支援者

困っていること自体を本人がわかってなくて、誰にも助けを求めないんです。

外出中に何かあったらと不安で、本人が出かけている間、ずっと心配してしまいます。

ヘルプカードは、《手助けが必要な人》と《手助けしたい人》を結びます。

ヘルプカードは、「手助けの必要」が目に見えるため、周囲からの配慮を自然に得ることができ、困っていることや緊急連絡先等も具体的に記載されています。このことは家族や支援者の不安を和らげ、当事者の外出や自立への歩みを応援することが期待できます。

ヘルプカードの記入方法

持つ方の状況によって書く内容は異なりますので、必ずしもすべての欄に記入する必要はありません。家族や支援者とも相談しながら、記入例を参考にして必要な内容を記入してください。手助けしてほしいこと、配慮してほしいこと、伝えたいことをわかりやすく、具体的に記入しましょう。

記入例

- 私は足が不自由です。 不自由な足は右足です。手すりがあるトイレであれば一人でできますが、 それ以外だと介助が必要です。
- 私は耳が聞こえないので、 手話か筆談でお願いします。
- 陣痛がきたら、 記入してある病院に連絡して連れて行ってください。
- 会話を理解したり、 話しを正しく伝えることが苦手です。
- パニックになったときには静かな場所に誘導してください。
- 発作が起きたらバッグの中にある薬を飲ませてください。
- 大きな声で話しかけられるのが苦手です。ゆっくり、 やさしい言葉で話してください。